

## 事例の概要

### 企業理念と公共性を意識し、障害当事者も含め地域に開かれた研修を開催

- ◆ 地域連携、多職種連携を重視する企業理念と公共性を意識し、社内だけでなく関係者、地域の方も受講可能な開かれた研修を実施。
- ◆ 障害当事者と関係者が一緒に研修を受講することで、当事者が自身の周囲に理解者がいることを体感できる場とする。

## 事例のポイント1 企業理念と公共性を意識して研修を工夫

- ・ 企業理念として、地域連携、多職種連携を大切にしており、さまざまな専門職の方と協力しながらワンチームで障害者支援をするというのが基本的な考え方としてあった。そこで、地域連携の一環として、医療・行政・福祉・教育分野の関係者および地域住民等、分野や立場を問わず参加可能な研修として実施することとした。
- ・ 上記の企業理念に加えて、地域の方が参加できるという公共性を意識して研修受講対象者を幅広く募集した。公共性を担保する研修とした背景には、メンタルヘルスに対する理解を地域に広め、心の不調で悩んでいる方が少しでも周囲に話しやすい環境を作っていきたいという思いがある。

## 事例のポイント2 当事者と一緒に研修をつくりあげる

- ・ 利用者である障害当事者も参加することにより地域の方の障害への理解の促進も進むと考え、あえて同じ場で研修を受けていただくスタイルにした。
- ・ 研修対象者を検討するにあたり、当事者が参加してどう感じるか等懸念点もあったが、研修を通して自身と向き合うこと、外部の方と一緒に参加することで、周りに自分を理解しようとしてくれる人がいるということを感じてもらいたいと考え、対象者を設定した。
- ・ チラシは各事業所の職員と、事業所の利用者（障害当事者）と一緒に作成。日頃から利用者の情報共有をしている医療関係、学校関係者に手渡しして案内を行った。

＜実施案内チラシ（利用者と職員が共同で制作）＞



**ココサポ** 心は見えない。だから、聴く。



# 研修準備から研修終了までの流れと工夫

## Step1. 実施計画

### 実施体制

- ・指定障害福祉サービス（就労移行支援・就労定着支援・就労選択支援）提供部門が主体となり、計画立案・運営
- ・講師の協力を得ながら研修内容や進行方法を検討し実施体制を構築

### 開催日程・開催場所

- 開催日程：参加が見込まれた当事者にとって無理のない日程とした。また、他のイベント等と連動させることはせず、幅広い立場の方が参加できるよう調整
- 開催場所：障害当事者も参加するため、普段から利用し馴染みがあり安心して参加できること、かつ必要な設備が整っている点を重視し、事業所を活用

## Step2. 周知・申込受付

### 周知方法

- ・開催案内および参加者募集については、対象を限定せず、関係機関や自立支援協議会等を通じて広く実施
- ・オリジナルの広報チラシを直接関係先に手渡し
- ・SNS(Instagram)を活用し、幅広い層に周知

### 申込方法

- ・申込フォームを作成、主にQRコードからのネット申込
  - ・開催場所の事業所への電話・メール申込
  - ・チラシでのFAX申込
- ※いずれも受付窓口は開催場所の事業所職員が担当



チラシ掲載のQRコードと  
問合せ先。開催事業所が  
窓口を担当

## Step3. 事前準備・ 研修実施

### 会場準備

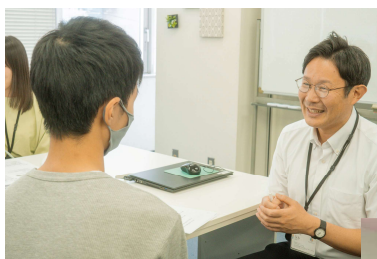
- ・障害当事者の方が安心して参加できる環境づくりを重視
- ・体調不良等が生じた際に迅速に対応できるよう、会場内の各ポイントに職員を配置し、フォロー体制を整備

### 研修実施・ 当日の様子

- ・研修中は講師が参加者（障害当事者等）の様子を確認しながら、適宜小休憩を入れる等、参加者に配慮して進行
- ・円滑に進行できるよう、グループワークでは事業所職員が加わってファシリテートを行った
- ・参加者同士が障害の有無に関係なく対話できるよう、座席をランダムに配置するなど工夫した

## 令和7年度実績

開催場所	養成者数
大阪市 事業所	10名
神戸市 事業所	16名
加古川市 事業所	39名
西宮市 事業所	24名
豊中市 事業所	10名
東大阪市 事業所	16名



<研修風景>



※選択研修は初回のみ「こころの病気について学ぶ」、以降は「ストレスコーピングでセルフケア」

## 期待する研修の効果

- ・研修を通じて、こころの不調への気づきや適切な声かけに対する理解が深まることを期待している。
- ・身近な場面で支援につなぐ意識が広がり、安心して相談できる環境づくりにつながると考えている。こうした積み重ねで、地域や職場におけるこころのサポーターの普及に寄与したいと考える。

## 実施結果について

- ・各回15～20名程度の参加を想定して実施した。実際には、想定を上回る参加があった回もあり、全体として安定した参加者数を確保することができた。
- ・当初、研修を進めるにあたり、利用者が参加することに懸念もあったが、研修を通して自身と向き合うこと、地域の方（外部の支援者等関係者）も一緒に参加することで、周りに自分を理解してくれる人がいるということを感じていただくことができたと考えている。
- ・アンケートは実施していないものの、受講者からは、「こころの不調への気づきや声かけのポイントが理解できた」「身近な人への関わり方を考えるきっかけになった」など、日常生活や業務に活かしたいという声があった。

## 今後の課題

- ・受講者が研修後にどのように学びを活かしているかについて、後追いで確認する仕組みの構築が課題。
- ・あわせて、専門職以外の参加者にもより参加しやすい内容・周知方法について検討していく必要があると考える。

## 今後取組を推進するための方針

- ・今後はアンケートを実施し、研修効果や満足度の把握に努めていきたい。
- ・今後も分野や立場を限定せず参加可能な形で本研修を継続的に実施し、地域や職場における「気づき・つなぎ・見守り」の理解促進を図りたい。また、本研修で得られた知見や参加者とのつながりを活かし、関係機関との情報共有や連携の可能性について、段階的に検討していきたい。